

11. 委員会報告採択

12. 閉会

(阿藤 誠記)

中国家族計画プロジェクト計画打合せ調査団参加

昭和58年7月6日(水)から7月16日まで11日間、国際協力事業団は国立公衆衛生院(衛生人口学部長)の村松稔博士を団長とする5名の専門家を中国に派遣したが、本研究所の河野稠果人口政策部長は人口統計の専門家としてこれに参加した。ほかに情報、教育、コミュニケーション担当の専門家として家族計画国際協力財団業務課長の薩摩林康彦氏、家族計画に関する用務担当者として厚生省国際課国際関係長の塩出博司氏、そして協力計画の専門家として国際協力事業団医療協力特別業務室長代理の田辺耕治氏がそれぞれ参加した。

一行は上海、西安、長春の各都市を歴訪し、周辺の人民公社、工場における家族計画の実態を見学、さらに当該各省各市、県の人口統計の実態を視察し最後の目的地の北京にて、中国国務院計画生育委員会の弁公庁主任梁済民氏を団長とする中国側の政府代表と、昭和58年度の日本の協力計画として(1)機材協力計画、(2)人口統計分野に関する日本からの講師派遣、(3)中国の人口統計研修員の日本への受け入れ、(4)将来の暫定協力計画の見直し、等について3日間の協議が行なわれた。

この協議については、人口統計、人口の分野以外の領域についての事項も多く、それらについては報告を割愛する。ただ人口統計の分野における講師陣の派遣、そしてその後の中国研修員の来日については、人口問題研究所としても密接に関連があるので、以下簡単に述べてみたい。

(1) 人口分野における専門家講師の派遣

9月中旬に人口統計の専門家3名が講師として中国に派遣されることになった。講義は主として東北地方の長春で行なわれる。受講者は40名で中国の各省の計画生育委員会から選出された中級研修生である。講義内容は、人口動態統計の集め方、評価の方法、生命表の作成方法、出生、死亡率の推定方法、人口推計の方法等となっている。

(2) 中国統計研修員の来日

前記の長春における人口統計の講義セミナーに参加する40名の受講者の中から10名の優秀な研修員が選ばれ10月中に来日、東京を中心として人口統計、家族計画の分野の見学、視察をし研修を行なう予定である。

(河野稠果記)

中国人口統計研修会

国際協力事業団の技術協力の一つである中国での人口統計研修会が1983年9月9日から21日までの13日間、中国吉林省の長春で行われた。

日本から講師として、本研究所の河邊宏人口移動部長、同人口情報部金子武治解析科長、ならびに厚生省大臣官房統計情報部衛生統計課長補佐近藤俊之氏がこれに当たった。又、国際協力事業団医療協力部の成田明敏氏が同行した。

研修生は国家計画生育委員会及び中国各省の計画生育委員会の職員約40名で、構成は、男女ほぼ半数、年齢は20歳台から40歳台までおり、人口統計についての予備知識も差があるというようにバラエティに富んでいたが、研修生は非常に熱心であった。

講義内容は、人口統計の評価、補整の方法、人口動態統計調査の方法、人口構造、出生力分析、死亡分析、生命表の作成、人口推計の方法、日本の人口動向等で、前半は講義が中心、後半は午前講義、午後演習という形式をとった。

(金子武治記)